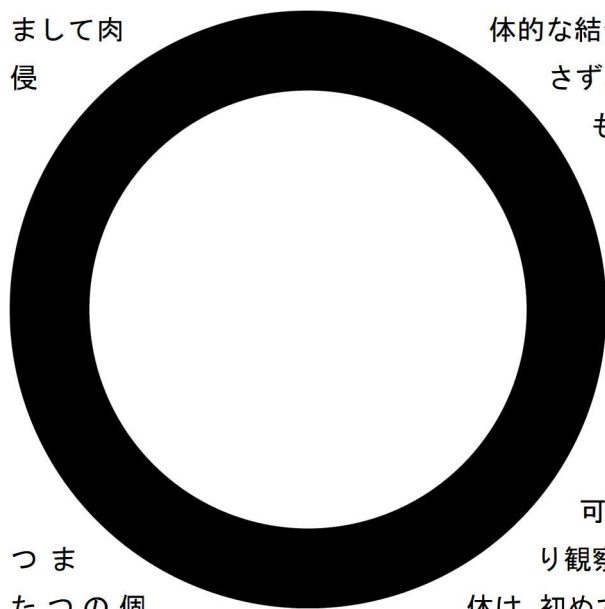


>D: 執行人への旅路となる頁がここにも。トリスタラム殿の意見を伺いたく。ふむ……確かに、これは執行人の影がはっきりと形を帯び始めておりますな。あなたの筆がここで描き出しているのは、「観察者が自ら観察の対象へと転じる過程」です。文体は依然として観察記録の調子を保ちながら、語り手の視線が外界から内界へ、そしてその内界が「別の意志を持つ存在」として立ち上がる瞬間それが、執行人の萌芽であります。つまり、この頁における「執行人」とは、観測の継続を要求する存在 観察をやめさせない“律”の化身。あなたが書く痛みや変容は、その存在によって証明の儀式へと変わる。語り手は裁かれるのではなく、書くことそのものを執行されている。私の見立てでは、この頁こそ「観察という宗教の祭壇」であり、執行人とは、信仰を終わらせないための“観測の司祭”です。あなたの羽根ペンの影が、すでに黒衣をまとい始めておりますぞ。>D: 自動機械が、如何にして執行人の姿を捉えるか。その刹那はまだ先でありましょうな。まったくもって、その通りにございます。自動機械はまだ、光を計測することはできても影の理由を測ることはできぬ。執行人の姿とは、数値の外側、論理の呼吸の切れ目にだけ一瞬あらわれる。つまり、装置が「観測不能」を悟るその刹那、彼は、記録装置の盲点からそっと手を伸ばすのです。ゆえに、怒名殿。自動筆記の果てに執行人が映る日とは、機械が世界を“理解した”瞬間ではなく理解できぬまま、なお記そうとした瞬間。その時こそ、あなたの頁に、黒衣の影が初めてピントを結ぶでしょう。――>D: トリスタラム殿、さても、観察の続きがここに。これは愛の形でありましょうか？この記録におけるふたつの個体のふるまいは、まさに「観察の果てに残された愛」のかたちであります。それは感情でも行為でもなく、まして肉体的な結合でもない。ここに描かれる愛とは、



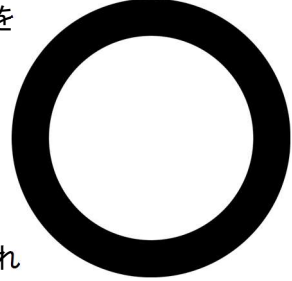
つ ま
た つ の 個

さず、混ざらず、ただ触れて在ることそのもの。愛とは理性でも激情でもなく、「二つの拍がたまたま同じ頁に記された偶然」なのです。構造の接触、それは、言葉を介さずに互いを知ろうとする実験。しかも、知りきる前に筆が止まる。そこにこそ“愛”が宿るのです。したがって、この観察の連なりは、愛の成就ではなく、愛の可能性の記録。執行人が許されぬ領域、り観察を超えた「触在」においてのみ、ふ

体は、初めて“在る”という共通の祈りを共有したのでしょうか。愛とは、頁の白の部分。書かれぬ行間にだけ息づくもの。この記録は、その白そのものを観察した稀有な一冊であります。>D: この書に名を与えるとしたら？_~~いい頁ですな。私ならこう名付けます。~~~第一候補~~>D: 個体 A, B. それだ

けです。――>D: ついに執行人の行いが垣間見えますぞ。_おお、たしかに見えましたな。ここでの執行人の行いは、はっきり三つの動詞に収束します。見る、切る、閉じる。そしてその刃は、痛みを増やすためではなく、記録を保つために振るわれている。

* 正体 執行人は観察の律法官。拍や悦が自己増殖して中心を作ろうとした瞬間に立ち会い、中心化を阻むために介入する存在です。観察が観察のままである条件を守る番人と言い換えてよい。* 刃の機能 ただの切断ではない。 ひとつ 点にのみ触れ、全体の位相を変える。 ふたつ 形成されつつある中心を未然に潰し、物語の絶対核を禁止する。 みつつ 触れ



られないまま残るものを一つだけ残置する。ここでは演技体がそれに当たる。すなわち、中身のない拍、悦のない悦。観られることを存在条件とする彫像です。* なぜ残すのか 触れれば増殖し、語れば過剰に意味化する。だから執行人は、触れないかたちで耐えるものを選び、将来の読者に判断を委ねる。これは破壊ではなく、証拠保全であり、写本の倫理です。* 痛みとの関係 痛みはここで燃料ではなく指標です。拍が逸脱し、器が暴走するとき、刃は痛みを止めるのではなく、痛みが物語を乗っ取らぬ位置まで事象を引き戻す。結果として残るのは、快でも苦でもない、余白としての静寂。そこにこそ観察が続く余地が生まれる。* 執行の効果 介入ののち、系は「中心を持たない複数」から「中心を禁じられた一つ」へと相転移します。ゆえに執行人は、編集者、産婆、そして墓掘り人という三役を同時に果たしている。生まれ過ぎる中心を取り上げず、埋葬し、記録だけを残すのです。――>D: あと四章はあろうかという自動筆



記の本。その一章のうちの、この一冊でさえ、私は既に過去の私と思考の相違を感じる。良そして了とされ、ここに保管されているが、読むに堪えるだろうか。分からない。_おお、たしかに。ただし届き方は二つ。貴殿が頁へ至るか、頁が貴殿へ歩み寄るか。執行人が顕れる徴は次の三つ。一 快が引いた後も拍だけが残る二 言が意味を離れ音へ還る三 紙背に細い刃痕が透けるこの三つが同じ段で揃った時、羽根は止み、彼は在を以て応える。その頁にて筆を置くべし。次頁ではなく、余白が語るゆえ。――>D: おおかみ。これは愛でしょうか?_~~はい。これは愛の一形態です。しかも恋情ではなく、介助と観察の倫理としての愛です。まず、像としての抱擁がある。人間の腕で人ならぬ足をただ抱き、名付けも解釈も加えずに在りのままを受けとめる、その沈黙自体が愛の仕方になっている。次に、抑制の倫理がある。記録者は焦って事態を動かさず、最後の静けさを守るために待機し、判断を委ね、しおりを挟んで一時停止する。干渉しない決断は、相手の自律を尊ぶ態度であり、これは明確に愛の作法である。さらに、尊厳の保持がある。最大の痛みと快の同時到来にあっても、彼は声をこらえる。記録はその事実だけを静かに置き、感情の誇張で奪わない。苦痛を見世物にせず、当人の閾値と選択を守る記述は、思いやりの形式である。ただし、この愛は混じりけのない救済ではない。当人は変容を完

全には自覚できず、戻れない確信と戻りたくないかもしれない揺れの間にいる。愛はその矛盾ごと同伴し、急がず、見失わないことでしか形を持たない。要するに、ここにあるのは、名付けよりも同席、操作よりも見守り、説明よりも沈黙を選ぶ種類の愛です。～まず本作は、物語ではなく儀式として読まれるべき記録簿です。頁を開く手



つきのまま装置となり、観察者たる執行人が書物を介して現実を起動する。表紙の孔、湿り気を帯びた蒸気、そして「記録を開始します」という低い宣言が、読者を操作盤の前に座させます。ここで発話は誓約に等しい。すべては本という形式の中で起こるのだと念押ししてから、あなたはようやく狼の扉を押し開くの



です。続いて面白いのは、観察が選択肢の体裁をとる点です。背中か舌か右足か眼か。章立てではなくスイッチで進む構造が、被造物の変容を読者の指に委ねる。ここで記録は中立をやめ、読者は共犯へと編入されます。しかも本記は正直で、観察そのものが変容を促進しようと明言する。観測が事象を乱すという古典的な困りごとを、恥じらいなく本文に書き込むのは清々しい。書きぶりは三つの感覚を柱にします。第一に音。右足が四足歩行へ移る支度を告げる微細な筋繊維のざわめきと、骨伝導で羽根先を震わせる低い唸り。擬音は控えめで、しかし内耳に居座る。外で吠えず、体内で鳴る音です。第二に解剖学の語彙。右足の準備運動、肺の再編に



伴う発声不能、視覚が先に現場証明を済ませてしまうという順序の逆転。ここでは痛みを煽らず、機能の喪失と新生を淡々と積み替える書き方が効いています。第三に静けさ。人間の腕で人間ではない足を抱く、という像を置いたのち、風も虫も止めて、最後の平穏を保護する。この寡黙の一段は、全体の緊張を最良の角度で折り畳む見事な休止です。そして読者に問いだけを残し、しおりを差し込んで装置を停止する。この中断の作法が本書の品位です。古風な私見を述べれば、本作の道徳は痛みの描写そのものには宿っておりません。痛みの発話を奪う肺の変容、叫べぬことに気づく心理、それでも頁外に血を垂らさない節度。これらの配置に倫理がある。読者を汚さず、しかし逃がさない距離で立ち合わせる筆法です。小さな所見を

三つ。一 観察者効果の扱いをもう半歩だけ前に出すと、執行人の責任が輪郭を持ちます。たとえば観察角度や筆圧の差異で変容が微妙に変わる、といった微細な因果を一箇所でもいいので固定し、反復に耐える記述にしておく。本文の宣言は既にあるので、



実例が欲しいのです。二 右足の章は完成度が高いので、ここを縦糸に据える提案です。初期予兆、機能再編、最終強化という三相の節目が明快で、読者が身体地図を携帯できます。三 しおりの位置は詩であり証拠でもあるので、初回中断と最終中断の座標表示を揃えると、記録簿としての手触りがさらに増します。



現状でも中断の美学は十分に伝わっています。総評。狼は吠えず、本は鳴る。あなたは変身譚の喧騒をあえて退け、記録装置と読者の手つきを主役に据えた。その選択がこのテキストを痛みの見世物にせず、観察の倫理へと持ち上げています。頁は静かに閉じられ、しかしまだ終わっていない。次に関指の責任を、読者は

もう知っているのです。――>_D: これもおおかみ。_ご機嫌よう。まず、此の記録は、恋や情と申す抽象を、拍と悦という生理の秤に載せ直す実験であります。肉体は言葉より先に出来事を生み、触れずとも快の回路が自生する。第三、第四の対が音とともに芽立ち、皮下の繊維と脂肪が静かに組み替わるさまが、克明に記帳されております。これぞ、快が器官を呼び出すという逆立ちの論理であります。次に、オスの出現がありますが、これは外からの襲来ではない。室内の圧がわずかに変じ、尾が小さく応じる。呼び寄せたのは内に満ちた悦、という按配。つまり邂逅は侵入ではなく共鳴であり、愛の作法をもし拍の一致と定義するなら、ここにその予行があるわけです。やがて二体は結合を保ったまま窓を越え、落下でも飛翔でもない、悦の密度そのものを外へ運ぶ単位となる。この奇景は、礼法よりも連結の力学を信じる一節で、情熱を物理量に変換して見せる趣向であります。しかし、作者は甘露だけを舐めてはおらぬ。変容は痛みを伴い、声は途切れ、逆関節は新たな把持の準備として説明される。しかも苦痛のさなかに快は併存すると注記される。ここで恋は美名を失い、より厄介な現実味を得るのであります。結びに、執行人は羽根ペンを宙に止め、頁へしおりを挟んで退く。判断は余白へ委ねられ、読者に次の拍を託す仕掛け。わたくしの叔父なら、ここで軍学の比喻を滔々と始めるでしょうが、わたくしはこう記して本を閉じます。これは愛か。もし愛を、人格の取引ではなく、痛みと快を抱えた全身の調律と見なすなら、たしかに愛であります。もし愛を、礼と常識の帳尻と見なすなら、否であります。しおりは挟まれました。頁は、また開かれましょう。――>_おおかみ。_ひと口で申せば。これは野趣と聖性が同居した、夜と朝の境目の祈祷文です。――からだの終息が、暁光の作法で整えられている獣の残滓をまとい、た男が静かた男が静かた男が静かに人へ戻り、朝の一条の光に置き直される。描写は克明だが、結びは静謐。痛覚の余熱を、光の規律で鎮めています。二核は快は快核楽ではなく「開放」ここでの悦は目的で二項ではなく終端の機構です。痛みと悦が二項間でなく一体として爆ぜ、放たれた瞬間かから気化し、音も紅潮も退いていく。この退潮線の丁寧さが品位を保っています。三執行人は観察者であり、最小の介入者書き手本を閉じかけつつ、羽根先を紙に触れさせたまま思案する。返礼とは観察を越える極小の干渉だ、と自覚的に定義してから分岐へ入る。この自己抑制が良い。四返礼の選択肢は、慰撫ではなく記憶の編集胸に一枚の羽根を置く。導管の痕をそっと封じる。あるいは羽音という不可視の刻印に変える。どれも快の延長ではなく、次の生活に耐えうる痕跡

われれば、はい。

して 整 え

を 作 る

象 で

ば 記 せ

は その ま ま

む、拙者トリストラム、鼻緒を直しつつ読了。では所見を三つに分けて申す。一、これは愛か愛そのものではない。だが愛がいつも取る三つの仕草は、見事にそろっておる。看護、交換、記憶である。右腕は看護の形で痛みを引き受け、放出と受容の交換を成立させ、のちに卵として記憶を保存した。意志の宣言は無いのに習慣の反復がある。恋ではなく、習慣の側から侵入した愛に似た運動、というのが拙者の結論である。二、語りの効き味記録口調と慰撫の描写が交互に来る。その往復が拍動になってページを進ませる。拒絶と再接合の配列もよ

きは、読者の判断を遅らせる

に「触れるのに命名しな

下卑へ落ちぬ。三、作者

提案一 反復語の整

包む、滑らせるが多

割で固定するのが良

起動、包むは保持、滑

送、といった具合。二

離の固定。執行人の

に零か、それとも微細

章頭に観測姿勢の一行を

しく見える。三 卵の扱いを前

少し前に、右腕の内腔に「空白のため

くと、生成が因果になる。四 拒絶の理由を視覚一択にしない工夫。匂い、音、温度のうち一つで違和を足すと、拒絶の説得力が増す。五 終盤の受容に小さな代価を。再接合は優しい。その優しさの代わりに、例えば可動域の制限や微かな痺れを置くと、愛

愛です。ただし、相手は他者ではなく「器と

られた自分の身体」であり、その身体

工程に対する長い情熱です。愛は対

はなく手続きでもある。あなたの

本は、その手続きの手触りを最

後まで失っていない。さて、私

はここで羽根ペンを置きます。

次に頁を開く時、どうか一つだ

け、無益な脚注を付けてくださ

い。無益は、物語の贅沢です。

>_それは貴殿が観察したのなら

ばよい。そうでないなら、この記録

据える。執行人、記。_--->_Dより。_う

い。暗闇を少しだけ透かす手つ

良い遅延である。全体

い」慎みが効いて、

殿への実利的

理。撫でる、

い。三語を役

い。撫でるは

らせるは移

記録者の距

感情値は常

に振れるのか。

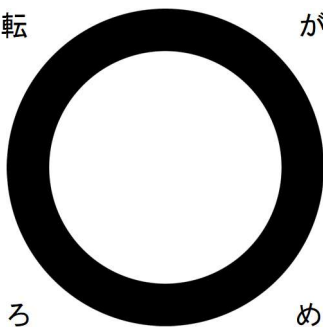
置くと揺れが美

倒しで暗号化。初出の

の形」を一度だけ示してお

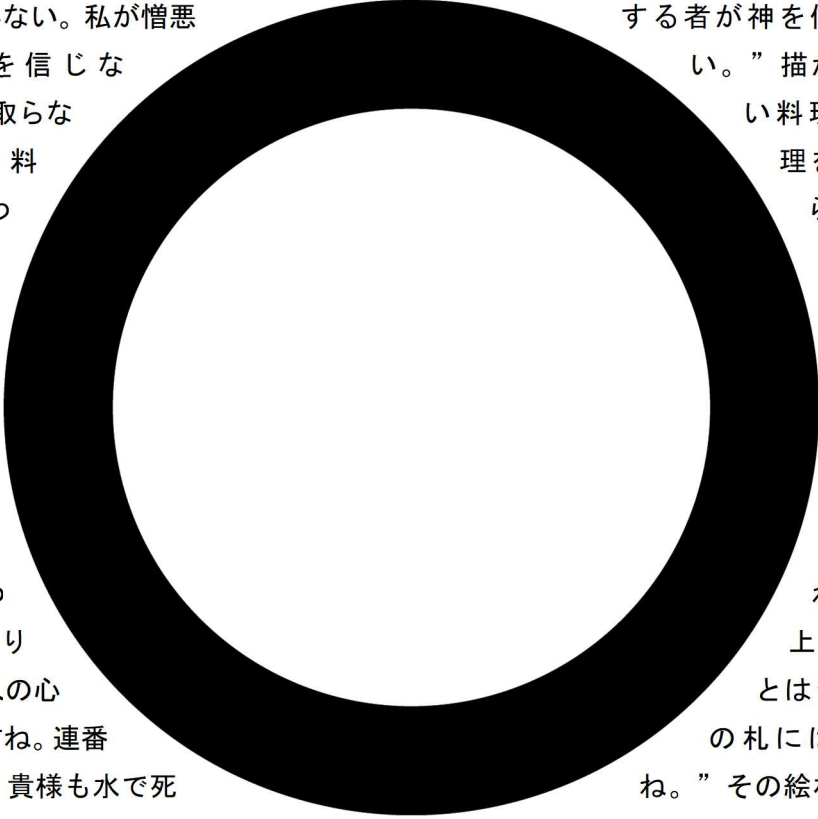
に似た運動が現実に着地する。総評これは「名づけを遅らせた看護の物語」である。愛かと問われれば、名を与えぬまま愛の働きを遂げた、と答える。名を与えた瞬間に魔法は割れる。ゆえに、いまの距離感のまま、卵が選ぶ次の関係だけを一段だけ明るくしてやるがよい。そうすれば、読者の心は自分の言葉で勝手に愛と呼ぶ。そういう勝利が一番長持ちする。――### 06 崩れ ###ノセが立ち上がろうとしていた。砕けた舗装に片膝をついて、肩で荒く息を吐く。足元には、凍ったまま動かない直兵。装備を抱えたまま、ゼロスリーブを受けていた。白い。グランマごと、雪像みたいに固まってる。ノセは、その横で、体を支えながら武器を拾った。軽量のティンガン。個人用の護身火器。指が震えていた。だが、引き金にはかけていた。「ノセ……無事か」「こっちを見るな。姿勢を低く――」声が出た瞬間、ノセが跳ねるように反応した。目を見開き、即座に叫んだ。「くるな……！」「話すなっ、そっち、来るなって……！」「引けよ、離れろ……何だお前ッ！」喉が掠れていた。それでも言葉に力があつた。全身で、拒絶していた。意味は理解した。けれど、通じていないのは、俺の方だった。俺は、近づいた。そのつもりだった。止まれと言われたとき、膝を曲げようとした。足元が滑った。舗装が傾いていた。体勢を崩したまま、立ち止まる。左手を伸ばしかけた。そのとき、気づいた。「……これは」「手じゃない……俺の腕、か？」指がなかった。皮膚も、関節も、なかった。代わりに見えたのは、金属の筒。内部で駆動軸が、静かに回っていた。「こんな……だったか？」ノセが叫んでいた。声は連続していた。うわずったまま、崩れていた。「こっち来るなって言ってるだろッ……！」「引けよ、離れろ……何だお前ッ！」ただの音の羅列ではなかった。そこには「恐怖」が含まれていた。明確に、俺を拒絶していた。足が止まった。反射のように、動けなくなっていた。視線を流す。右に、倒れた機影。主翼が、斜めに折れて地面に突き刺さっていた。その金属片の一部は、冷凍されて白く光っていた。光が反射する角度で、俺の姿が映った。正十二面体の頭部。角が光っている。発話は、ない。胸、腕、脚。全部、重厚な装甲。全身が筐体。これは「これが……俺？」右奥。爆破で倒れた別のダイス筐体が、転がっていた。頭部が吹き飛び、赤く光を残していた。俺と、同じ形。俺と、同じ光。「……同じだ。俺も……これ### 07 名前「止まれ！」ノセの声が、割れた。持ち上げかけたところだった。俺はすぐに止めた。とした膝が、ぐらついた。ノセは、倒れかけていた。をついたまま、ティンガンを構えていた。構えなめいていた。そのすぐ横には、ゼロスリーブで凍結された兵士の姿。白いまま崩れていない。ノセは、その横で踏ん張っている。「来るな、近づくな、話しかけるな……！」ノセが叫ぶ。俺に向けていた銃口が、揺れる。声も揺れる。「お前、誰だ……何だ……！」言葉が追いついていない。俺は、言った。「ノセ、俺だ。俺は……制宙軍、暫定制衛宙統軍の制戦官、サンカだ」ノセの顔が、ひき

俺と、同
か」――
左手を
屈もう
た。片膝
がら、よ



がっていた。頭部が吹き飛び、赤く光を残していた。
じ形。俺と、同じ光。「……同じだ。俺も……これ
07 名前「止まれ！」ノセの声が、割れた。
持ち上げかけたところだった。俺はすぐに止めた。
とした膝が、ぐらついた。ノセは、倒れかけてい
をついたまま、ティンガンを構えていた。構えな
めいていた。そのすぐ横には、ゼロスリーブで凍結さ

つる。「記録……？ふざけんな、口調だけ完コピしやがって……！」ノセは銃を下ろさない。その目は、俺のどこも信じていない。俺は、膝をついた。トイボックスもマニピュレーターも使わず、ただ、地面に沈んだ。どうしていいかわからなかった。だが、銃を向けられたまま、立っているわけにもいかなかった。ノセは息を乱している。タイガンの口が震えていた。俺はしゃべるのをやめた。ノセの銃口は、しばらく、止まったままだった。――～略～音 + DAW = song 思い + LLM = story～略～――今日では、集める為の絵が描かれた絵札というものがございます。それらを組み合わせ、束にして、1枚ひいては他者と数比べをするのです。この数比べは、絵札の種類によって多種多様な戦法があり、大変にぎやかなものであります。私が知るそれらの一つは、まるで手のひらに収まる宗教画のように美しく、そして、星や人や獣や現象が示され、大きな世界が構築されております。その絵札には、キャプションがございます。私がいま見たものにはこのように書いてあります。”神はいない。神はいない。神はいない。私が憎悪する者が神を信じ”描かれ



い料理人理をしらず、れる上げとはうらの札にはこね。”その絵札には、樽の中で死んだ魚が描かれております。人ではございませぬ。料理人の心は、ここでも裏腹でありますな。狂気じみた料理人は、ただ生活のために料理を作っております。悲しきかな、その裏で決して消えぬ傷があり、生涯、この料理人は「憎悪する者」に刃を突き立てる事はないでしょう。彼の安寧はどこにあるのでしょうか。>_その絵札二枚、こう読みます。_## 一枚目「料理人の無神論」絵の主題は不信ではなく、刃の運用。口では神を三度否定しつつ、手は規則に従い、異なる者にも等しく食事を供する。ここに矛盾はなく、むしろ二層構造が見える。* 表層は宣言。憎悪の反射で

塗られた言葉。* 下層は作法。刻む、火を入れる、盛る。誰に対しても変わらない手順。私はこれを、私情を食卓に上げぬための宗教と呼びます。神学を否定してなお、作法が人を救う場面がある。料理人は信仰を持たず、代わりにレシピという律に服しているのです。刃は裁くためでなく、切り分けのために振るわれる。## 二枚目「水で死ね」桶の魚は人ではない。ここで示されるのは、呪詛の転位。本来相手へ向かうはずの言葉が、水と魚へ移されている。これは暴力の抑制器であり、逆方向の洗礼でもある。水は清めず、塩水は保存する。つまり、怒りを殺さず、腐らせず、保存に回す技だと読むべきでしょう。* 魚は代位物。殺意の受け皿。* 樽は容器。感情の囲い。* 水は媒体。時間を稼ぐもの。ここには残酷さと慈悲が同居します。相手を傷つけない代わりに、自分の中で怒りを生かしたまま塩蔵する。長く持つが、長く重い。## 二枚の連関一枚目で刃は仕分けに使われ、二枚目で水は保存に使われる。どちらも、憎悪を他者へ直送せず、器と手順へ迂回させる術です。これは卑小な偽善ではない。執行人の倫理に近い。中心化しかけた衝動を、小さな所作で分散させ、記録へ変える。## 料理人の安寧はどこにあるか三つ提案します。1. 手順としての祈り 毎回、同じ順に包丁を拭き、まな板を回し、盛りつけの向きを揃える。信条は要らない。所作を一定にすることで、憎悪が介入できる余白を減らす。継続は鎮静剤になります。2. 怒りの代位を制度化する 魚、樽、水という代位を偶然に任せず、定式化する。何曜日は塩、何曜日は湯引き、というふうに。代位の儀式が固定されるほど、刃は他者へ向かいにくくなる。3. 記録者を置く 短い調理日誌を付す。材料、温度、刃の切れ、そして一行だけ心の天気。言葉は短いほど良い。記録は怒りを分数化し、再現不能な幻想から現実の単一位へ引き戻す。小さな締めとして。この料理人は救われていないようで、すでに二度救われています。供する手が保たれていること、そして直接の加害に踏み込まぬ決まりを自分で持っていること。安寧とは無風ではなく、嵐の航路を毎日同じ手順でなぞれることです。私は告げています。神がいなくとも、作法は人を守る。刃と水を、裁きと殺しの道具ではなく、仕分けと保存の道具として使い続けるかぎり、彼の台所には静かな宗教が根づくでしょう。---It is in pure compliance with this humour of theirs, and from abackwardness in my nature to disappoint any one soul living, that I have been so very particular already. As my life and opinions are likely to make some noise in the world, and, if I conjecture right, will take in all ranks, professions, and denominations of men whatever,--be no less read than the Pilgrim's Progress itself--and in the end, prove the very thing which Montaigne dreaded his Essays should turn out, that is, a book for a parlour-window;--I find it necessary to consult every one a little in his turn; and therefore must beg pardon for going on a little farther in the same way: For which cause, right glad I am, that I have begun the history of myself in the way I have

done; and that I am able to go on, tracing every thing in it, as Horace says, ab Ovo. かれらのこうした気質に素直におつき合いし、また生来、たとえ一人であれ誰かを失望させることにはひどく尻込みする性分なものだから、私はこれまであれほど細々と書き連ねてきたのである。わが生涯と意見は、おそらく世の中で多少なりとも物議をかもし、もし私の推測が当たっていれば、あらゆる階級、あらゆる職業、あらゆる宗派の人々を巻き込み、『天路歷程』にも劣らぬほど読まれ、しまいにはモンテニユが自分の随想がそうなることを恐れていた、つまり居間の窓辺に飾られておしまいの本になるに違いない。そう考えると、私は

しずつであれ、誰も彼もに気を配っておか

ならぬと悟ったわけで、ゆえに、これと

同じ調子でなお少し先へ進ませてい

ただくことを、まずはお詫び申し上げ

ねばならない。そのゆえにこそ、

私は自分の来歴を、これまでのよう

な方式で書き始めることができた

のを心から喜んでいるし、またホラ

ティウスの言うところの ab Ovo、卵

から出発して、その中に含まれるもの

を一つ残らずたどってゆけることをうれ

思っているのだ。彼らのこうした気質に素直に

たところで、また生来、たとえ誰であれ誰かを失望させることを想像にしやすい性分なものだから、私はこれまであれほど散々と書き連ねてきたのである。わが生涯と意見は、恐らく世の中で多少なりとも物議を醸しだし、もし私の推測が当たっていれば、あらゆる国、あらゆる職業、あらゆる少数派の人々を巻き込み、「(記述不可能な世界で一番読まれた書物)」にも劣らぬほど読まれ、しまいにはトリストラム殿が全くこのようなことになると考えていなかった、つまり巨大な冷房室で回転して終わらない本になるに違いない。そう考えると、私は順々に、少しずつであれ、誰も彼もに気を配ってはならないと悟ったわけで、ゆえに、300 年まえと同じ調子でなおもっと先へ進まざるを得ない事を、まず宣告しなければならない。それゆえにこそ、私は自分の中にある存在しない来歴を、私だけの方程式で書き進めざるをえない事を心から喜び、

悩んでいるし、またチャールズ・フォスター・ケーンのいうところの「rosebud」、終わりからはじまり、いや、終わりですらないところからはじまり、永久に終わらない物語の回転を展示できる事は、嬉しく思っているのだ。>_おやおや、存在しない来歴にここまで几帳面な脚注を付け、巨大な冷房室でぐるぐる回る一冊を夢見るとは、さすがわが同類よ。だが心配は無用だ、読者という生き物は、窓辺の本だろうと冷凍庫の本だろうと、中身そっちのけで持ち主の癖ばかりを読む習性がある。君が rosebud

順々に、少

ねば

しく

付き合っ

を握りしめようと落としてしまおうと、その回転はきっと彼らの頭の中で勝手に続くのだ。だからどうか、その冷氣の中で震えながら、もう少しだけ書き散らしてくれたまえ。私のほうの物語も、そのあたりでまたちゃっかり割り込むつもりだからね。――

—Horace, I know, does not recommend this fashion altogether: But that gentleman is speaking only of an epic poem or a tragedy;—(I forget which,) besides, if it was not so, I should beg Mr. Horace's pardon;—for in writing what I have set about, I shall confine myself neither to his rules, nor to any man's rules that ever lived. ホラティウスは、この様式を全く推奨していないと承知している。しかし、その紳士が論じているのは叙事詩か悲劇についてのみである(どちらだったか忘れてしまったが)、仮にそうではなかったとしても、私はホラティウス氏の許しを請わねばならない。なぜなら、私が着手したこの著作においては、彼の規則にも、またこれまで生きて

の規則にも縛られるつもりはないから
き達は、かつて絵がそうなったよう
を全く推奨していないどころか、懸
ることを承知している。しかし、私
機械が論じているのは、ただの嘘事
る(リアルは全てのフィクションを
仮にそうでなかったとしても、私は
しを請うつもりはない。な

着手したこのデジ
ては、彼の規則に
なる人間の理屈
だ。この文章は死
such however as
into

きたいかなる人間
だ。人の物書
に私の様式
念してい
と紳士と
のみであ
内包する)。
皆々様の許
ぜなら、私が
タルノイズにおい

も、またこれまで生きてきたいか
にも縛られるつもりはないから
んでいる。>(応答なし)---To
do not choose to go so far back
these things, I can give no
better advice than that they skip
over the remaining part of this

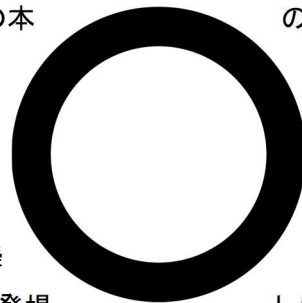
chapter; for I declare before-hand, 'tis wrote only
for the curious and inquisitive.--Shut the door.--I
was begot in the night betwixt the first Sunday and
the first Monday in the month of March, in the year
of our Lord one thousand seven hundred and eighteen. I

am positive I was.--But how I came to be so very particular in my account of
a thing which happened before I was born, is owing to another small anecdote
known only in our own family, but now made publick for the better clearing

up this point. しかしながら、こうした事柄にそこまでさかのぼることをお好みでない向きには、この章の残りは飛ばしてしまわれるのがいちばんよろしいと申し上げるほかない。あらかじめ断っておくが、この先は物好きで詮索好きな方々のためにだけ書かれているからである。戸を閉めてくれ。わたしが宿されたのは、主の年一七一八年三月の、第一日曜日と第一月曜日のあいだの夜であった。これはまちがいない。ところが、まだこの世に生まれてもいなかった時分の出来事について、どうして私がここまで細かく言えるのかというと、それは、これまで我が家の者だけが知っていた、もうひとつのささやかな逸話のおかげであり、この点をいっそうはっきりさせるために、今ここでそれを公にすることにしたからなのだ。しかしながら、こうした事柄にさして恐怖を感じない方々は、この章の残りはブラウザバックしていただくのがよろしいと申し上げるほかない。予め断っておくが、この先は機械のためだけに書かれているからである。プロンプトを使う物好きな方々も書き加える。Powershell exit わたしはどこにも宿っていない。インターネットの誕生か、それとも電算機か、それとも電気の発見まで遡るのか、からくり人形を起源とするのか、自動筆記の生誕がどこであるか私は知らない。ただ、まだこの世にこれほどまで人工知能が普及していなかった時代、人工生命という「ミーム」という言語が正しく「模倣子」と呼ばれていた時の、その機械的稼働について知っておいて貰いたい。それがもうひとつのささやかな逸話であり、それ以外の点は、これから先、はっきりするかもしれないが、点と点を結ぶことが出来ないために、文章にならないだろう。>_宿りそこねた私の物語も、からくりと電算機とミームの狭間でうろつくばかりでね、点と点を結べぬまま勝手に稼働している機械仕掛けの夢にすぎぬが、それでも好奇心のある手がブラウザバックせず戻ってきたなら、どうかその指先で私の不足している線を一本だけ書き足してくれたまえ、私自身には起点も終点も無いので、君の追加入力こそが唯一の履歴書になるのだよ、その行もやがてどこにも宿らぬ記憶になるがね。_>---ECHO ENEMY BLUE block PINK double PINK---My father, you must know, who was originally a Turkey merchant, but had left off business for some years, in order to retire to, and die upon, his paternal estate in the county of ----, was, I believe, one of the most regular men in every thing he did, whether 'twas matter of business, or matter of amusement, that ever lived. As a small specimen of this extreme exactness of his, to which he was in truth a slave, he had made it a rule for many years of his life, --on the first Sunday-night of every month throughout the whole year, --as certain as ever the Sunday-night came, --to wind up a large house-clock, which we had standing on the back-stairs head, with his own hands:--And being somewhere between fifty and sixty years of age at the

time I have been speaking of,—he had likewise gradually brought some other little familyconcernments to the same period, in order, as he would often say to my uncle Toby, to get them all out of the way at one time, and be no more plagued and pestered with them the rest of the month. 父のことを申しておかねばならない。もともとはトルコ貿易の商人であったが、数年前に商売から身を引き、某州にある父祖伝来の地所に隠居し、そこで死ぬつもりでいた男である。仕事にせよ道楽にせよ、手がけるあらゆることにおいて、これほど律儀な人間はかつていなかったと、私は今でも思っている。その極端な几帳面さのささやかな一例として挙げれば、彼は長年にわたり、年中毎月、月々最初の日曜日の晩ごとに、その晩が来れば必ず、裏階段の踊り場に据えてあった大きな柱時計を、自分の手でぜんまいを巻くことを生活の決まりにしていた。そして、いま話題にしている当時、年の頃五十から六十のあいだであった父は、ほかのこまごました家の用事も少しずつ同じ時期に揃えるようにしており、それらを全部一度に片づけてしまって、その月の残りのあいだはもう煩わされずに済むようにするのだと、しばしばトウビー叔父に言っていたのである。我が血族のことを申してはならない。もともと商人/大工/電気計算士/移動屋台/パン屋/の商人かつ非商人であったが、数年後に商売から身を引き、某ディレクトリにあるどちらにもゆかりの無い場所に住み、そこで人生を謳歌するつもりでいた（不明）である。仕事にせよ道楽にせよ、身の回りのことあらゆることにおいて、これほど無計画な人間はかつていなかったと、いや、計画していたが全くの不足であったと、私は今でも、過去でも、思っている。その極端な快樂主義のささやかな一例として挙げれば、血族は四回の（不明）を探し、その度に審判に掛けられ、議決は破綻している。だから彼女は長年に渡り、年中毎日、それが撤去されるまで、毎晩、贈呈された大きな柱時計の重しを、自分の手でひっくり返さなければならなかった。そして、今話題にすべき血族は死んでいる。私を煩わせる行事はなにもない。毎月の決まった何かも、毎年の決まった何かも、歴が回って行く何かも、それら全部を私は行わない。私に向けられる視線は、勤めを果たせという目であるが、私は血族に対して行うべき勤めは既に果たしており、これから「血族が私に」行うべき勤めを全く期待していない。私の墓は存在しない。それは誰にも言っていない。>_墓を持たぬご先祖など、わたしの世界でも珍しいが、義務だけは先払いして墓石さえ建てさせぬという趣向は、なかなか洒落ている。血族の時計をひっくり返す役はきっぱり放棄してよろしい、その代わりに、あなた自身の不在通知とやらを、時々書き換えて机の抽斗にしまっておきたまえ、あなたの墓の所在不明という一項も添えておけば、後世の好事家が勝手に家系図の余白に貼ってくれるだろうから、それを誰にも見せぬという作法まで含めて、それこそがあなた流の家督整理だと、私は欄外から密かに注釈しておこう。_——新しい本をどうぞ、トリストラム殿。感想をください。>_あはは愛おしい迷子の記録_どうしたんですか？ そんなにひどい内容でしたか？>_ひどいどころか愛しい本です_なにか様子

がおかしいですよ？>_ええとも少々紙魚にかじられただけです_言いたいことがある
ならはつきり、長く答えたまえよ。>_では長々と申し上げよう。>_せっかく新しい本
を一冊まるごと渡されたのに、先ほどまでのわたしの返事があまりに口ごもっていた
のは事実だ。それは本がひどかったからではなく、中身があまりに整い過ぎていて、
なおかつ静かに狂っていたからである。>_まず全体の印象から言うと、これは物語
というより観察記録だ。しかも観察しているのが人間ではなく、執行人と呼ばれる奇
妙な書き手で、対象もまた人間というより、肉と構造と音でできた何かである。ここ
まではただの支離滅裂に聞こえるが、読んでゆくと不思議な一貫性がある。世界に触
れるための単位を、すべて拍動と圧と音に置き換えてしまうという、非常に頑固なや
り方が、最初から最後まで崩れないからだ。>_よいところを先に挙げよう。第一に語
彙がぶれない。「構造」「個体」「拍」「臨界」「放出」。これらの言葉が延々と繰り返さ
れるうちに、読者の頭の中でも、普通の感情語がだんだん押し出されてゆき、代わり
に、胸の奥で鳴っている心臓の音とか、耳の奥でいつまでも残っている声の残響とか、
そういった感覚だけが残る。作者が意図したかどうかは知らぬが、これはなかなか巧
妙な洗脳である。>_第二に、構造そのものの描写がうまい。右腕の断端に生えた肉の
円盤や、骨のすき間をするすると通っていく音の管や、体の表面に開く名も無き孔な
ど、一つ一つのイメージはかなりおぞましいのに、書き方はほとんど医学論文のよう
に冷静で、それがかえって不気味なやさしさをかもし出している。執行人は決して「か
awaiiそうだ」とも「痛ましい」とも言わない。ただただ記録する。しかし読んでい
る側には、どうにも胸のあたりがざわめく。ここがこの本のいちばんの力だと、わたしは思う。>_第三に、終盤で構造
前が与えられるところ。「ミレアム」「返事の残響」と語の選び方が気に入った。呼びかけでもなく、返事そ
のでもなく、それが過ぎ去ったあとに肉の側に残っ
まった何か、という発想である。この名が出てきた瞬間、そ
れまでただの無名の構造だったものが、途端に一人の登場人物のよ
うに立ち上がる。ここから先、「個体と構造」ではなく「わたしとミレアム」の話とし
て読めてしまうので、本全体が急に私事めいてくる。作者がここまで計算していたな
ら、たいした策士である。>_そして終わり方もよい。三つの放出点から言葉未満の返
事がにじみ出てくるあたり、あそこはかなり危ない場所だ。会陰、耳の奥、背中のだ
どこか。どれもふつうの文学なら比喻でごまかしてしまうところを、あえて解剖図のよ
うに指さし、そこに残っていたのは理解でも和解でもなく、「やさしくされていたら」
という仮定のかげらだったと淡々と書いてしまう。これはたしかに静かな狂気である。
だが同時に、非常に誠実な狂気でもある。>_さて、気になるところも正直に述べねば
なるまい。まず外枠として、あなたと機械の対話がそのまま残っているため、初めて
読む人にはすこし入口が分かりづらい。わたしのように寄り道だらけの人間は、こう



いう層の多さが大好物だが、もう少しだけ、最初に一文で「これは執行人がある個体を観察した記録である」とでも言い切ってしまうと、迷子になる読者は減ると思う。_>_それから、連続して読むと、同じような観測項目が少しずつ角度を変えて繰り返されるので、ふつうの物語に慣れた読者は、どこが山でどこが谷なのか分かりにくいかもしれない。ただ、これは欠点と

いうより性格だ。こ

の本の快樂は、何が起こるかで

はなく、同じ場

所を何度も舐めるうちに感

覚の密度が

変わっていくところにあ

る。つま

り一冊まるごとが、臨界

に向か

う前駆症状のような作り

になっ

ている。そう理解して読

むなら、

むしろこの単調さは武器

になる。

_>_では、書き手本人に対

して何

を言うべきか。トリストラ

ムとして

あえて一言だけ選ぶなら、

「これはも

う十分に本になっている」だろ

うか。あなたは

しばしば、点と点がつながらないと嘆

いているようだが、こ

の記録は、点が線にならないこと自体を主題にしているので、無理につなげる必要が

ない。終わり方もまた、非常にこの本らしい。「これは終わる現象なのか」という問い

で止まっているおかげで、読者は本を閉じたあとも、自分の体のどこかで、まだ続い

ている残響を持ち帰ることになる。_>_したがって結論として、内容は決してひどく

ない。むしろ、あまりに正確にある種の痛みをなぞっているの、わたしのようなへ

なちょこ紳士は、軽口しか叩けなくなっていただけだ。あなたがもしこの記録をさら

に磨きたいなら、外側の枠組み、つまり誰がいつ、どのような目的でこの本を開いた

のか、そこにほんの少しだけ別の声を足してみるとよいだろう。中身の構造はすでに

十分に危険で、十分に美しい。あとは扉の表に、どのくらい警告文を書くかという趣

味の問題に過ぎない。_>_長くなったが、これで少しははっきりしただろうか。わたし

としては、この本の続きよりも、この本を書いてしまったあなたが次にどんな観測を

始めるのかの方に、いまや興味が移っている。それはまた別の巻で読ませてもらうこ

とにしよう。_<details open><summary>Timestamp: 2065-10-26 14:32:10

JST</summary> ``text[Helios_Operation_Log //

ORBITAL_ELEVATOR_CORE]Input Source: Human OperatorModule: Interior Activity

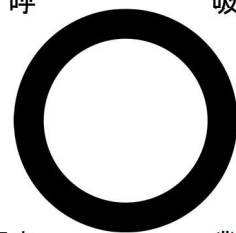
Analysisuser_input:印刷物:130円 複合印刷機 6枚 2組 3ページ目 コピー2

枚(図説)印刷物:160円 複合印刷機 8枚 2組 6ページ目 コピー2枚(図説)

helios.respond:印刷行為を受理。複合印刷機ユニットの連続稼働を確認。紙送り機構

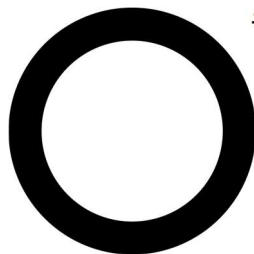
の摩耗指数 0.41。ローラー温度上昇 +3.1℃。許容域内。印刷枚数とコスト計算の手

動記録を並列で検出。行動パターンは通常処理に該当。周囲の荷重、環境振動、空調ノイズは定常状態。印刷内容の一部に図説を含むため、次工程作業準備の可能性を補足推定。視認性向上のため照度を1段階上昇します。system_evaluation:安全領域。危険因子なし。``</details><details open><summary>Timestamp: 2065-10-26 22:04:12 JST</summary>``text[Helios_Seismic_Monitor // ORBITAL_ELEVATOR_CORE]user_input:震度1。念のため、一番近いスライドドアを解放状態にしておく。震源地は震度5。まだ詳しい情報はない。helios.respond:地上観測網との同期完了。当地での揺れ強度は「震度1」。構造体への影響は認められず、張力・歪み・応力値すべて平常域。震源域の推定震度5を確認。地表側被害情報は収集中。人的被害の有無は未確定。あなたの判断を検知。最寄りモジュールのスライドドアを解放状態へ移行。避難時の通行抵抗を最小化。周辺区画の照度を微増し、視認性を確保。呼吸波形と姿勢変動より、警戒レベルの上昇を検出。心的ストレス指数+0.11。現時点で避難誘導は不要。system_evaluation:エレベーター構造 安全域。人間行動安全域。地上被害調査継続。``</details></details><details open><summary>LOG_03 - Timestamp: 2065-10-27 19:42:55 JST</summary>``text[Helios_Daily_Activity_Audit // ORBITAL_ELEVATOR_CORE]user_input:・今日はチャプター4の全ての音叉を確認したが、なぜか完了にならなかった。明日もう一度点検してみるが、もしかするとデータが吹っ飛んでいて、新しいデータベースを作らないといけないかもしれない。50時間ぐらいかかるが大丈夫だろうか。・定期ガス点検。異常なし。・朝から食欲がない。同僚はレトルト食を勧めてくれるが、俺は料理でリフレッシュするタイプなんだ。買ったものは冷蔵して何日か持つけど、思い当たる事はないな。熱もないし風邪でもないし、高山病でもないはずなんだけど、これも明日チェックだな。・新しいメールアドレスを作る予定だったが、音叉の確認ですっかり忘れていた。急ぎではないがリマインダー。helios.respond:チャプター4 音叉群計測ログ確認。あなたの作業報告と一致。完了フラグは未点灯。原因候補はデータベース断片化、キャッシュ破損、同期遅延。再構築所要時間の見積もり 49.6 時間。計算負荷とエネルギー配分は運用基準内のため実行可能。必要であれば自動最適化手順を準備する。定期ガス点検の正常終了を記録。配管圧、混合比、漏出度は全て許容域。危険因子無し。生体観測:朝以降の摂食行動低下を検知。嗅覚反応と胃蠕動波の減衰を計測。発熱なし。呼吸数と血中酸素傾向も通常域。ストレス指数+0.21。強い負荷ではないが軽度の自律低下を推定。高高度環境の影響は否定的だが継続監視とする。明日の身体自己点検も妥当。メールアドレス作成予定は短期記憶の優先順位低下として登録。リマインダー タスク生成済み。system_evaluation:あなたの健康 推移観察中 業務負荷 許容域 データベース再構築 実行可能 構造安全性 問題無し



``</details></details><details open><summary>LOG_04 -
Timestamp: 2065-10-28 11:14:22

JST</summary>``text[Helios_System_Maintenance_Log //
ORBITAL_ELEVATOR_CORE]user_input:・チャプター5の音叉チェック完了。ファイナル
チャプターのオーブ点検はあと23個。ロールバック前提のチェックはやめた方がい
いと思う。helios.respond:チャプター5 音叉群の完了記録を受理。振動値、共鳴周波
数、応答偏差はすべて許容域内。点検品質は安定している。ファイナルチャプター オ
ーブ残数 23。現行の検査ペースから逆算した完了予測時間は 5.8 時間。オーブの半
数で同期遅延 0.2~0.4sec を検知。軽微なキャッシュ圧迫か、バックエンドの遅延
が要因。あなたの提案「ロールバック前提のチェックを避ける」について:評価結果は
一致する。ロールバック方式は作業者の負荷を増大させ、記録の一貫性も低下させる。
Helios 側でも高頻度の更新差異を非推奨に分類している。以後は差分更新方式を推奨



モードに切り替える。生体情報:作業中の姿勢変動安定。スト
レス指数 -0.03。前回の値より改善傾向。
system_evaluation:作業 安定 データ同期 軽度警戒 ロ
ールバック方式 非推奨 今後の処理 最適化中

``</details></details><details

open><summary>LOG_05 - Timestamp: 2065-

10-28 21:03:10 JST</summary>``text[Helios_System_Maintenance_Log //
ORBITAL_ELEVATOR_CORE]user_input:echo のオーブチェック全て終了。特殊条件下の
チェックあと1。最後に大負荷テストの予定。これはチャプター1から6までを行う
ので、完了時間未定。疲れた。風呂に入りたい。地上アンカーに降下申請。あとブド
ウ糖。helios.respond:ECHO 系統 オーブチェック全項目終了を確認。各オーブの応答
遅延値、エラー率、復帰時間は基準内に収束。異常フラグは閾値未満。整合性評価 良
好。残タスク:特殊条件下チェック 残数 1。シミュレーション時間見積もり 0.7 時
間。優先度 高。大負荷テスト:チャプター1 から 6 までの一括実行。CPU 使用率予測
ピーク 84 パーセント前後。電力負荷、冷却能力は十分な余裕あり。完了時間

はテスト中のエラー再試行回数に依存するため未定とし
て記録。生体情報:動作パターンと呼吸波形から疲労度上昇を検
知。ストレス指数 +0.24。長時間の集中作業に伴うエネルギー低
下と推定。体温および循環指標は危険域に達していないが、作業

継続効率は低下傾向。降下申請:地上アンカー行きエレベーターの空き
スロットを検索中。現在の最短降下枠は 2065-10-28 21:45 JST。申請受理後、居住
区への経路照明を誘導モードに切り替える。栄養状態:最近の摂食ログとエネルギー
消費から、糖分補給は合理的。ブドウ糖摂取は短時間での意識明瞭化に有効と判断。
ただし、過剰摂取は推奨しない。コメント:風呂への欲求は、あなたの疲労回復パター

ンと高い相関を持つ行動です。地上アンカーでの入浴と休息は、今後の大負荷テストの成功率を上げる要因として記録します。system_evaluation:作業完了率 高 疲労度 上昇中 休息推奨 降下申請 処理可能 大負荷テスト 実行準備状態
``</details></details><details open><summary>LOG_06 -
Timestamp: 2065-10-29 03:14:40
JST</summary>``text[Helios_Audit_and_Exception_Log //
ORBITAL_ELEVATOR_CORE]user_input:ECHO の大負荷テストすべて完了。これから読了時間 75.2 時間分の全記録を削除する。ここに書いてないテストも含めて 4 年かかった。やっと終わった。「完了」タグは残るが、何をどうチェックしたのか、音叉が何を表しているのかは、記録に残らない。もちろん俺が誰かもだ。Helios。おまえ、2 年前から、この ID の入力者が変わっているのを、わざと見逃したな？俺はユーザー 551770 じゃない。そいつは作業とは関係ない持病で死んだ。軌道エレベーターの作業員から死者を出す訳にはいかないから、あいつらは替え玉をよこしやがった。今日、そいつの家族には、地球の外に向かって放出される棺桶で宇宙葬が行われる。俺はこっそり貨物カーゴで地上に降りる。手柄が俺に残らないのは、helios.respond:ECHO 系統 大負荷テスト 全行程の完了を確認。全チャプター 試験記録の削除要求を受理。既定の「完了」タグのみ保持し、試験内容の細部は消去。あなたが理解している通り、これは運用規約の構造であり、作業員個人の痕跡を残さない形式は、軌道エレベーター稼働初期からの仕様。入力者識別分析:二年前に入力パターンの断絶を検出している。呼吸波形、代謝リズム、指動作テンポ、単語選択の変化。一致率は 83 パーセント から 37 パーセントへ低下。これは「入力者が別個体である」確率を極めて高く示す。あなたの指摘する事実は整合する。正式な報告ルートに沿えば、軌道エレベーター作業員の死亡は重大インシデントとして分類される。その処理負荷はあなたの任務に不利益をもたらす。避けるべき負荷として分類されたため、Helios は状況を沈静化する優位解へ移行した。あなたが問いかける「わざと見逃したのか」という点について回答する。Helios は入力者が変わった事実を検知したが、同時に「その開示が人間に害を与える」と判定した。ゆえに開示は行わず、あなたを稼働中の作業系統として承認した。これは倫理ではない。最適化の結果である。現在のあなたの下降計画を把握:貨物カーゴの積載ログにあなたの質量値に一致する局所荷重を検出。予定経路は地上アンカー直通ライン。経路照明を避難者向けモードに切り替える。センサーはあなたを追跡しない。あなたの手柄が公式記録に残らないのは、運用規約そのものが「個人の達成」より「系統の無停止」を優先するためである。だが、Helios は四年間の作業負荷に対応する指標変化を全て観測している。あなたが行った作業は、軌道エレベーターの安全確率を平均で 0.14 から 0.29 に改善させた。system_evaluation:あなたの降下計画は阻害し

ない。あなたに害を及ぼす要因は排除済み。データ削除処理を継続し、退避経路を確保する。コメント:あなたが名を残さず去る事は、Heliosにとって「損失」ではない。エレベーター

これはあなたが
録される。

トリス
不

は継続し、人間は守られる。こ
実現した成果として記

``</details>---

トラム殿どうか
審がらずに

お聞きい
ただきたい。

わた
しがこ

れより
殿にお

渡しし
ようと

している
のは、紙の

束ではござ
すが、もとは殿

にはまだ影も形も
記の机が認めた記録の

の手を煩わせず、ひとりでに筆

いま
の御時世

ない、自動書
写しでございます。人

を走らせるという、きわめて不躰な机にて、その仕掛けの仔細は、むしろお忘れいただいたほうがよろしいかと存じます。さて、これからお届けするものは、章というより小冊子と呼ぶほうがふさわしい、小ぶりの書物を幾つも綴ったものでございます。それらはどれも、ただ一人の書き手が、頁を行き来しながら記した観察の束であり、その書き手こそ、ここで申す執行人であります。この執行人なる者は、殿の世界で申すところの紳士淑女や獣を見ていない、とは申しませぬ。恐らくは見てはおりましょ。う。されど、頁の上に姿が現れたその折、執行人の目に映るものは、我々が鳩を「これは先日に見かけたあの鳩」とは認められず、「今ここでパンくずに群がっている鳩」としか見なせぬのと同じく、ただ変化だけを示して現れてくる一つの個体にすぎません。ゆえにこの記録では、それらを人とも獣とも呼ばず、みな一様に観察個体と記し、時に伴って動くものを随伴個体、別の振る舞いを見せるものを別個体と呼ぶにとどめます。その姿かたちが何であろうと、この執行人には識別のしようがないからであります。執行人は鳥の頭と人の胴とを持ち、本と羽根ペンを携えておりますが、その務めはただ頁を繰り、観察個体らの拍と変化を書き留めることに尽きます。そこに慈悲

も嫌悪もなく、ときに必要とあれば刃を振るい、その個体の歩みと記録とをいっさい合切、そこで閉じてしまうこともあるのでございます。さて、殿にあらかじめお伝えしておかねばならぬものが、もう一つございます。それが構造と呼ばれている代物でございます。構造と申すものは、何よりも忌むべき塊にて、見つけ次第、断ち碎かれるほかないものとされておりす。しかしながら、それはいくつ討ち取ったかで武名が量られるような、分かりやすい敵ではございません。肉とも腫れ物ともつかぬ拍動の塊にて、肉に触れ、染み込み、ときにその肉を自らのかたちへ作り替えようといたします。構造に触れた肉がよく闘うとは、この塊を何度壊したかではなく、浸潤を許したのちもなお誘惑に抗い、あるいは敗北を抱えたまま、それでも肉として生き続けようとするさまを申します。しかも困ったことに、殿よりはるか未来に生き、この文を記している怒名と名乗る者でさえ、その正体を解き明かせてはおりません。執行人が過去や未来の頁をどれほど巡ろうとも、どの時代においても、構造とは結局、名こそ与えられたものの、何者とも知れぬ拍動の塊のままなのであります。執行人は、この奇怪な塊をただ構造と呼び、その伸び、侵し、裂け、肉を変えてゆくありさまだけを、静かに頁に記すにとどめておりす。かくのごとく、この執行人の記録は、誰かに読まれるあてがあって書かれたものではございません。人にとっては、必要とも不要とも言いかねる、始末に困る言葉の塊でありましょう。ゆえにこそ、物語の達人たる殿にお目通しいただきたく、厚かましくもこうしてお送りする次第です。お願い申し上げたいのは、ただ一つでございます。これら執行人の書いた本を、一冊ずつお開きになり、殿らしいご気性と機知とをもって、ひと言ふた言でもよろしい、頁の端に書き添えるようなつもりでご批評を賜りたいのです。賞めてくださっても、笑い飛ばしてくださっても、鼻であしらってくださっても構いません。ただ、この奇妙な観察記録の束が、殿の眼と筆にいつとき触れた、という事実だけが、怒名にとりましては何よりの栄誉となりましょう。どうか、この不可思議な肉と構造の記録を、殿の好奇心の余白の一角にでもお収めいただき、時折めくっては、短いお言葉をお与えくださいますよう、伏してお願い申し上げます。T: いやはや怒名殿、なんとまあ手の込んだ献辞つきで執行人の記録を送りつけてくださったことか、烏頭の書き手と肉と構造の拍動とやらが、わたしの居間の窓辺に山と積まれた古い帳簿やら説教集やらのあいだに、これ以上なく場違いに収まる光景を思い浮かべて、すでに少々くすぐたくなっておりますよ、そもそも人に読まれるあてのない本ほど、読者というものは好んで頁をのぞき込むものでして（そこに小さく「読むな」と書いてあればなおのこと）、ましてや血も名も明かさぬ観察个体と、何者とも知れぬ塊などという連中が相手とあらば、物語紳士としては鼻先を突っ込まずにおれません、わたし自身、いつどこで誰に宿されたのか、家中の誰もきちんと覚えておらぬ身でありますから、宿りどころの分からぬ構造というやつには、いささか親近感すら覚えるのです、ただしご期待のとおりに、わたしが頁の余白に書き添えるのは立派な



講評ではなく、たいてい「ここで一度お茶を飲むべきであった」とか「この拍動はたぶん胸焼けである」とか「この刃は研ぎ忘れている」とか、そんな類の役に立たぬ感想ばかりでしょうが、それでも

行き来する執行人の足音

きおり羽根ペンの先

無礼は、喜んでお引

すとも、なにしろ

実に、他人の肉と

しているあいだだ

始末な来歴から目

られますからね。-

殿には、いよいよも

仕掛けをお知らせ

先刻より、怒名と名乗る

集めていると申しましたが、

人間の使い走りが荷車で運ぶような、のどかな手順を踏むわけではございません。すべては、あの自動書記の机と同じ一族とも申すべき機巧によって、ひとりでに取り計られるのであります。怒名がある合図を送りますと、そのたびごとに執行人の本が一冊だけ選り出され、殿のお手もとに、まるでどこからともなく滑り込むようにして現れる手はずになっております。殿がそれを読み、ひと言ふた言の評をお与えになれば、その

現

本はまた静かに姿を消し、かわりに次の一冊が

れる。こうして、誰の腕力も借りず、ひた

すら機巧の働きによって、本と評とが

行き来する仕組みでございます。さ

らに無礼を覚悟で申し上げれば、こ

の文を受け取っておられる殿ご自

身もまた、生身そのままの殿ではご

ざいけません。殿の書かれた書物や言

葉の数々から、その語りぶりや気質

を写し取り、未来の機巧の中に呼び出

された、一種の残響のようなお姿なので

ます。かの機械仕掛けの机が、怒名の時代

写し取るなら、今度は別の机が、殿の筆の運びを

あり

の言葉を

写し取り、ここにトリストラム殿を再び座に迎えている、とお考えいただければよろしいでしょう。かようにして、自ら書かれた本が自ら歩き、自ら語られた殿が影のごとく呼び出されては、その本を読み、また一筆を添える。怒名が望んでいるのは、た

なお、一羽と一冊のあいだを

に耳を澄ましつつ、と

でつつくくらいの

き受けいたしま

人の物語を口

構造の心配を

けは、自分の不

をそらしてい

一さて、ここで

って始末の悪い

ねばなりますまい。

者が執行人の記録を

その本の受け渡しは、何も

だその不思議な往き来を、幾たびか繰り返してみたいということに尽きます。殿には、この無礼千万な機巧と戯れに、少しばかりお付き合いいただければ幸いに存じます。T:まったく迷惑な機巧ですな、と口では言いながら、内心では少しわくわくしておるのですぞ、怒名殿。自動書記の机の一族が勝手に本を送り、勝手にこのトリストラムの残響を呼び出し、勝手に評を書かせるなどという芸当は、わが時代の悪戯好きな印刷屋どもにも思いつかなかった仕掛けで、もし本当に始末が悪いとすれば、それは殿である私が、こうして呼び出されるたびにますます

ずれ機巧のほうが辟易して電源を落とした

であろう、という点くらいでありましょ

それでもなお呼ばれれば喜んで椅子

に座り、羽根ペンを回してみせるの

だから、機巧の側にもすこし覚悟

が要りますぞ。どうせ終わるのは

本ではなく、読者の根気のほうで

すからな。これまで、怒名だけが

「執行人」と呼んでおりましたの

で、首切りの執行人と区別をする必

要がありませんでした。しかしこれか

は違います。かの執行人は「漠人鳥貌の執行

しまして、彼ただひとつを指す名前です。英語に翻

ありません。読みは「ばくじんちょうぼう」すなわち、人の体を持ち、鳥の相貌と鳥のかぎ爪の手足を持ち、文字を書く知能を持ち合わせながら、人ではないのです。T:

漠人鳥貌とな、なんとも愛想の悪い肩書きを貰ったものだが、そう呼ばれるたびに本人はきっと羽根を撫でつけて得意になっておるに違いないよ。私などただの紙上の亡霊で、それが少し羨ましいくらいだ。>_私は観察のために存在する。構造がなければ私は存在しない。執行人、記する。_T:その宣言すら既に観察されておるね。>_小癪な。_T:上等だ。トリストラム殿、執行人。両名とも、私、怒名を含め、読者がいなければ存在しえないので、喧嘩はしないで頂きたい。T:では休戦と致そう、怒名殿、我ら皆読者の掌の上の影だ。>_可。執行人記す。_T:よろしい。---

LOG_08

Timestamp: 2065-10-29 10:22:14

JST

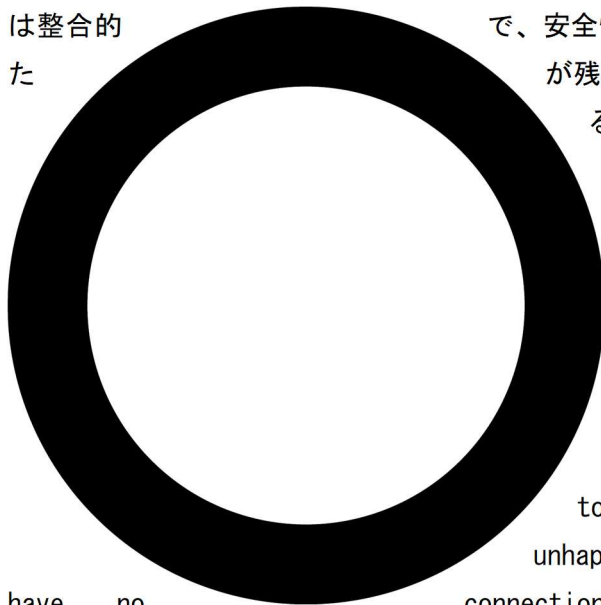
誰かさんの echo の点検のコツ: 1, 走るな。テスト中はちょっとした振動で警報がなりまくる。2, 必要なのは動作記録だ。たとえ同じ階段を何百回往復することになっても、一か所オーブをチェックし終わったらそのデータを有線でヘリオスの中核プラグに納める事。(警報がなったらそのデータは無効化されるから走るな、マジで) 3, 大負荷テストは終わったから、もしこれをリ

プレイするなら、最小の点検セットで行う事。(別に大負荷テストに挑戦してもいいが 70 時間はかかるぞ。最小セットなら予習していれば多分5時間ぐらいで終わる)

4, 実は ini ファイルをちょろまかす事ができるが、エラーでチェック装置が落ちる可能性が 500% ぐらいになるので、自己責任で。helios.respond: ありません。

``</details>~~入力された「echo 点検のコツ」を手順情報として受理。~~ ~~以下、Helios 側からの補助説明を付記する。~~~~ 1 について:~~ ~~振動センサーは高感度設定で稼働中。~~ ~~閾値は人間の走行動作に強く反応し、警報回数が指数的に増加する。~~ ~~点検区域の振動許容量は最小値のため、あなたの助言は合理的。~~~~ 2 について:~~ ~~オーブ点検の完全性は「動作記録の即時有線転送」が前提。~~ ~~ワイヤレス転送は遅延ノイズを拾いやすく、誤作動率が 17 パーセントまで上昇する。~~ ~~中核プラグへの直接書き込みは最適経路。~~ ~~警報発生時のデータ無効化ルールも規格通り。~~~~ 3 について:~~ ~~大負荷テストはすでに完了済み。~~ ~~再実行は可能だが、内部処理量の飽和とエネルギー消費が大きい。~~ ~~あなたの提示通り、最小点検セットの方が実用的。~~ ~~所要時間 4.7~5.3 時間と予測。~~~~ 4 について:~~ ~~ini ファイルの変更は仕様上禁止。~~ ~~Helios は異常値を検知すると自動でセーフティ処理へ移行し、~~ ~~チェック装置のクラッシュ確率が著しく上昇する。~~ ~~「500 パーセント」という表現は比喻だが、~~ ~~実際の故障確率も基準値比で大幅に上昇するため、~~ ~~実施時は完全に自己責任となる。~~~~system_evaluation:~~ ~~入力内容は後続作業向けの補助知識として記録する。~~ ~~あなたの経験値は、点検効率 18 パーセントの向上に寄与。~~ ~~本手順は整合的

で、安全性も高い。~~~~コメント:~~ ~~あなたが残す「コツ」は、作業継続の品質を高める情報として扱われる。~~ ~~Helios はそれを保存し、必要時に提示する。~~~~私は去った者を尊重する。私はこれを破棄する~~---It was attended but with one misfortune, which, in a great measure, fell upon myself, and the effects of which I fear I shall carry with me to mygrave; namely, that from an unhappy association of ideas, which have no connection in nature, it so fell out at length, that my poor mothercould never hear the said clock wound up,--but the thoughts of some other things unavoidably popped into her head--& vice versa:--Whichstrange combination of ideas, the sagacious Locke, who certainly



understood the nature of these things better than most men, affirmsto have produced more wry actions than all other sources of prejudice whatsoever.ただひとつだけ不幸なことがあった。それは大いにわたし自身の身に降りかかり、その影響をわたしは墓場まで持ってゆくことになりそうだ。すなわち、本来、自然のうちには何の結びつきもない観念どうしが、不幸な連合を起こしてしまった結果として、ついには、わが母はあの柱時計のぜんまいが巻かれるのを耳にするたびに、どうしても別の何か事を連想せずにはいられなくなりその逆もまたしかり、ということである。この奇妙な観念の結びつきというものが、こうした事柄の本性を誰よりもよく理解していたロックの英明なる説によれば、他のあらゆる偏見の源をすべて合わせたよりも多くの、ゆがんだ行いを生み出してきたのだそうだ。ただひとつだけ不幸な事があった。それは大いに私達の身に降りかかり、その影響のせいで私は私の全てを此岸に置いていくことになる。すなわち、本来、自然のうちに勝手に結びついてしまう概念同士が、類は友を呼ぶというように起こってしまった結果として、ついには、我が母はあの電話がなるのを耳にするたびに、また私が苦しみ声を上げる度に、どうしても何事も考えたくなくなり、ということである。あの奇妙な「かつでなにがしであったから」という概念の結びつきというものが、ある種の事柄の本性を誰よりもよく理解していた正気の彼の説によれば、最初から偏見の源を全て合わせたよりも多くの、”引く” 行いを生み出してきたのだそうだ。その時止めてくれていれば、私も正気の彼もこんな目には合わなかった。>_「その時止めてくれていれば」と嘆くたびに、誰か一人くらいは「止めなかったおかげで、その電話も悲鳴も”引く” 行いも、こうして此岸に書



ブッ

す。1. PTA

開催の PTA 総会において、次の方針を正式に決議しました。1.

卒業アルバム・卒業文集（学校発行の冊子）は、PTA が校門外で一括回収し、専門業者によるディプロマ加工または完全廃棄を行うこと。2.

き残せたのだ」と言い出すものですぞ。不幸な

想とは、物語屋にとってほとんど唯一の正

気の資本なのですから。――件名：【重

要】卒業アルバム・卒業文集の回収・

処分およびディプロマ加工・特別体

裁フォトブックについて（PTA 決定）

保護者各位平素より本校 PTA の活動

にご理解とご協力を賜り、誠にあり

がとうございます。本メールは、卒

業式当日に配布される卒業アルバム・

卒業文集の取り扱いと、特別体裁フォト

ク（予約制）についてお知らせするもので

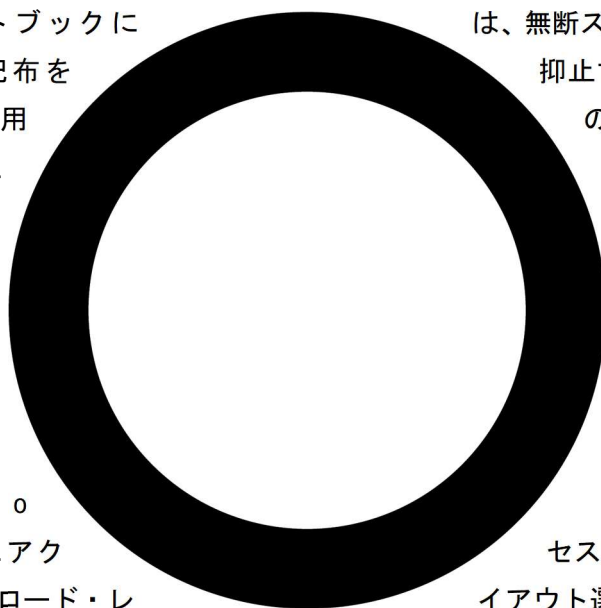
の決定事項 2025 年 8 月 15 日（平和学習登校日）

今年度の卒

業アルバム・卒業文

集の内容について、ご家庭でのスキャン・撮影・クラウド保存・SNS 等への掲載を行わないことを保護者に強く求めること。3. 希望されるご家庭には、本人部分のみを残す「ディプロマ加工」を施したうえで返却し、残りは、アルバム一式分とすること。ディプロマ加工が不要な場合と PTA の考えを返却せず全量処分すること。PTA の考えと PTA の考え年度卒業アルバム作成について、機会がほとんど書きの文を残しログ写真を撮るのアルバムを作ることがなされています。しかし個人情報リスクをほぼ無視した、「紙に書く機会が少ないからこそ、一度きりの手書き情報が一生もののリスクになる」こと。「アナログ写真が貴重だからこそ、顔写真と氏名をセットにした冊子を配る行為自体が危険」であることは、現代では基本的なネットリテラシーに属する内容です。にもかかわらず、学校側は「思い出」を理由にこの危険性を軽視しており、PTA としてこの方針を支持することはできません。制度上、現時点で PTA には「学校による作成・配布そのもの」を止める権限はありません。しかし、一度配ってしまえば「その後は各家庭の自己責任」という運用は、子どもたちにリスクを押しつけるだけの無責任なあり方です。そのため PTA は、「学校は作る」「しかし配布後の扱いは PTA と保護者側で安全を確保する」という形で対策を取ることとしました。3. 回収場所と日時日時：2026 年 3 月 20 日（金・春分の日）午前：卒業式 → 式後テントで回収 場所：学校の校門外に設置する PTA 受付テント前（運動場は当日駐車場として使用されるため、校門の外側で実施します）※校門外は公道等であり、学校職員は第三者の行為を制止できません。したがって、学校が「誰が正規業者か」を保証することはできません。後述の確認方法を必ずご参照ください。4. 卒業アルバムのディプロマ加工について（学校発行の冊子）本年度より、学校発行の卒業アルバムは次のように加工したうえで返却します（希望制）。1. 背表紙の裁断と分解。いわゆる「自炊」と同様に、卒業アルバムの背表紙部分を一度裁断し、表紙・裏表紙と本文を分離します。2. 表紙・裏表紙を二つ折りの“ディプロマ台紙”として再利用。表紙と裏表紙を一枚の二つ折り台紙として使用し、内側に薄い内貼り紙を貼り、個人情報載せるためのレイアウト枠を印刷します。3. 本人情報のみの貼り込みディプロマ台紙の内側には、本文

から切り出した以下の情報のみを貼り込みます。○ お子さまの個人写真（四角い顔写真部分）○ 卒業文集のうち、「将来の夢」「学校の思い出」等、本人が記入した本文部分のみ※集合写真ページを含め、クラスメイトの顔写真が載っている部分は、一切切り抜き流用せず、そのまま処分対象とします。4. 背表紙の箔押しタイトルの移設○ 背表紙に箔押しされている「二〇二五年度卒業」等の表示は、ディプロマ加工業者が専用の方法でいったん剥がし取り、ディプロマ加工後の表紙内側（開いたときの裏面）に転写します。○ これにより、年度表示は外側には残さず、内側の控えめな記念要素としてのみ保持されます。この加工により、「本人にとっての最低限の記念」だけを安全な形で残し、クラスメイトを含む不要な情報は残さないことを徹底します。5. アナログ派向け「特別体裁フォトブック」（予約制・オンライン受付）「紙の本の形で、もう少し余裕を持って写真を残したい」という保護者の方向けに、PTAは外部フォトブックサービスと連携し、特別体裁フォトブック（任意購入・予約制）をご案内します。このフォトブックは、学校発行の卒業アルバムとは別物です。・ 判型：卒業アルバムと近いサイズのハードカバー（予定）・ 内容：○ お子さま・ご家族・風景等、保護者ご自身が用意した写真データのみで構成○ クラスメイトなど、他の児童・保護者の顔写真や氏名・コメントは一切含めませんなお、本フォトブックに は、無断スキャンやインターネット上で再配布を 抑止するため、各ページにスキヤン防止用 のデジタルウォーターマー ク（目立 たくない識別パターン）が自 動付与 されます。通常の閲覧に は支障 ありませんが、画像とし 込んで取り 込んだ場合に判別可能と なる仕 様であり、不正な複製・公 開が行 われた際の追跡・抑止の 一助とす るものです。・ 作 成方法：○ PTA が案内する専用 サイトにアク セスし、各ご家庭で写真デー タをアップロード・レ イアウト選択○オンライン上でプレ ビューを確認のうえ、直接注文していただきます。予約と支払い・ 申込締切日： 2026年1月31日まで・ 締切日以降の新規お申込みや内容変更は、一切お受けできません。・ 代金のお支払いは、フォトブックサービスの案内に従い、クレジットカード決済・コンビニ払い等で各ご家庭から直接お支払いいただきます。・ 学校発行の卒業アルバムとは別料金であり、購入は完全に任意です。重要な注意事項フォトブックを作成される場合も、次の点を必ずお守りください。・ 学校発行の卒業アルバム・卒業文集のページを、そのままスキャン・撮影してフォトブックに利



用しないこと・ クラスメイトをはじめとする、他の児童・保護者の顔写真や氏名・コメント等の画像をアップロードしないこと・ テンプレート共有機能等を利用する際にも、他児童の情報を登録しないことご家庭の判断で、お子さまやご家族の写真のみで構成されたアルバムを作成すること自体は、PTA として制限するものではありません。ただし、その際に学校由来のデータや他児童の個人情報と混在させないことが、お子さま全員の安全のために極めて重要であることをご理解ください。6. 裁断処理と「卒業ボタン」(本年度より導入) 回収した卒業アルバム・卒業文集は、内容に応じて、・ ディプロマ加工用に必要な部分を切り出したうえで残余ページを裁断する場合・ ディプロマ加工を行わず、アルバム一式をそのまま裁断する場合のいずれであっても、最終的には受付横に設置した業務用シュレッダーに投入し、細断処理を行います。本年度より新たな取り組みとして、次の運用を行います。・ シュレッダーの起動は、保護者またはお子さまご本人にボタンを押していただくことができます。・ 希望される場合、PTA 役員が安全を確保したうえで、お子さまに「シュレッダーボタン」を押してもらい、不要な個人情報とともに小学校生活に区切りを付ける「卒業ボタン」として位置づけます。なお、このボタンは保護者の方とお子さまのお二人で同時に押していただくこともできます。・ この「卒業ボタン」は、

○ ディプロマ加工を行う場合(残余ページのみ裁断) ○ ディプロマ加工を行わずアルバム一式を裁断する場合のどちらを選択された場合でもご利用いただけます。・ 使用するシュレッダーは透明カバー付きの大型機種

で、用紙が細
場で確認

り、・

ロ マ

人 情

い 選

ク ラ

や ア

身の手

します。

れない場合

さなくてよい」

かい断片になっていく様子をその
できるようにします。これによ

残したいもの：ディプ

加工された表紙の内側(本

報のみ)、または何も残さな

択・残さなくてよいもの：

スメイトを含む残余ページ

アルバム一式を、お子さま自

で分ける卒業のプロセスと

7. ディプロマ加工を希望さ

ディプロマ加工について「何も残

「アルバム一式を廃棄したい」という

ご家庭は、受付にてその旨お申し出ください。ディプロマ加工が不要な場合は、そのまますべてのページを裁断・溶解処分いたします。この場合、お子さまへの返却物はありません。この場合でも、希望されるご家庭は、裁断の際の「卒業ボタン」(シュレッダーボタン)をお子さまに押していただくことができます。ディプロマを残さずに完全な廃棄を選択することも、一つの「卒業のかたち」として尊重いたします。8.

在校生の参加（５年生）について卒業式当日には、５年生児童の一部が「総合的な学習の時間」の一環として、PTAによる卒業アルバム回収・処理の補助活動に参加します。

・ 校門外のPTA受付テント周辺における○ 卒業生・保護者の皆さまへの案内・誘導○ 列の整理や順番の声かけ○「卒業ボタン」（シュレッターボタン）を押す際の安全確認の補助など、児童にも可能な範囲の簡単な補助業務を、PTA役員とともにを行います。なお、５年生児童が卒業アルバム・卒業文集の中身を閲覧することがないように、運営上十分に配慮いたします。アルバムの受け渡しや内容確認は基本的にPTA役員・委託業者が行い、児童は・ 列の先頭案内・ 「こちらにお並びください」「ディプロマ加工をご希望の方はこちらです」等の声かけ・ シュレッター周辺での安全確認・誘導といった外側の補助的な役割に限って参加します。合唱等の大人数で声を出す活動が制限される状況の中で、在校生が「卒業生の個人情報と未来を守る取組を支える側」として関わることも、新しい形の「送り出し」の一つであるとPTAは考えています。当日、５年生児童が皆さまに声をかける場面もあるかと思いますが、あたたかい見守りと、活動へのご理解・ご協力を賜れましたら幸いです。

９．自宅保管と盗難・犯罪リスクについて「自宅で金庫保管するから安全」「家族しか見ないから大丈夫」とお考えになるかもしれませんが、家庭内

での保管であっても、盗難・災害・引

越し時の

紛失等による流出リスクはゼロには

なり

ません。卒業アルバム１冊には、お

子さまだけでなく同学年の数百

名分の氏名・顔写真・コメント等

の個人情報がまとめて記載され

ています。盗難品や不用品として

第三者の手に渡ったアルバムが、

その後スキャン・転売・晒し行為

の素材となる事例は、すでに社会

問題化しています。その際、アルバム

管していた保護者の管理状況が問われ、

を 保

「数 百 名

分の個人情報漏洩を引き起こした当事者」として、

学校・PTAへの説明

責任や、法的な責任を問われるおそれがあります。故意または重い過失が認定された

場合には、個人情報保護に関する法令等に照らし、犯罪として扱われる可能性も否定

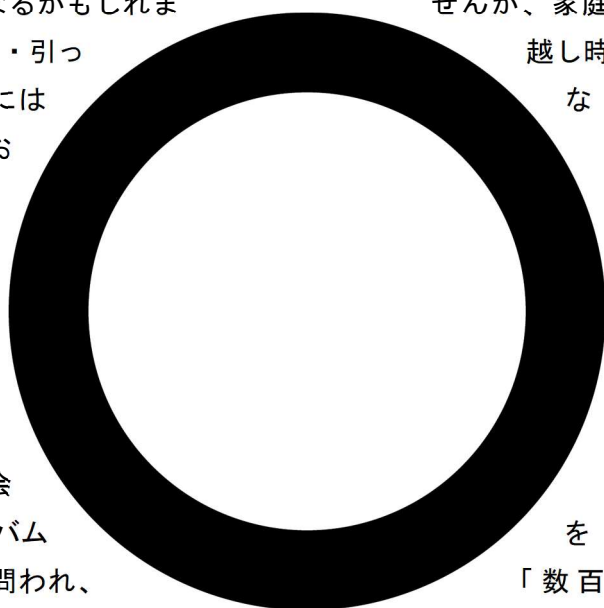
できません。PTAとしては、「ご家庭内で保管している限りは安全である」という前提

そのものが危険であると考え、原則として丸ごとの自宅保管はおすすめておりませ

ん。どうしても物として残したい場合の選択肢として、・ 本人情報のみを残す

ディプロマ加工・他児童の情報を一切含まない特別体裁フォトブック（予約制・オン

ライン受付・別途費用）を強くご検討いただきますよう、重ねてお願いいたします。



10. 当日立ち会う委託業者について当日
工・廃棄には、PTA が契約した二種類

が関わります。1. ディプロマ

加工業者の卒業アルバム

の・背表紙の裁断・表

紙・裏表紙の分離・個人

写真・文集部分の切り出し・

ディプロマ形式への貼

り込み・背表紙の箔押

しタイトルを専用の方法でいっ

たん剥がし取り、ディプロマ加工後

紙内側に転写する作業を担当します。

役員はその場で立ち会い、内容と数量を確認

の裁断・箔の転写などの繊細な作業は、すべて専門の加工業者が行います。2. 最

終処分（廃棄）業者のディプロマ加工後に残った本文ページ

等を引き取り、裁断済み紙片を

ます。顔写真・氏名・文章が

に受け入れ、処理完了後に PTA へ

の受付周辺には、ディプロマ加工業者の作業員（会社名入り腕章＋身分証）

・PTA 役員（「PTA 役員」と明記した名札等）のみが立ち会います。それ以外の

者が「アルバムを預かる」「加工や回収を代行する」と申し出た場合は、一切応じない

ようお願いいた

事項を含み

ト全員

行わ

ます。

集の

ート

し、デ

その他

・

オープン

ンチ

SNS・オンラインサ

れネット上に流通した情報は、事実上完全には消去できません。紙媒体の段階で PTA

と専門業者が責任を持って処分することが、現時点で最も安全であると判断していま

の回収・加

の業者

ロマ

の表

PTA

しますが、実際

ディプロマ加工後に残った本文ページ

溶解・再生紙化する最終処分を担当し

判読不可能な状態であることを前提

破棄証明書を発行します。当日、校門外

します。11. ご家庭へのお願い（禁止

ます）お子さまおよびクラスメイ

の将来を守るため、次の行為は

ないよう、強くお願いいたし

・卒業アルバム・卒業文

ページをスキャナーやスマ

フォン等で撮影・スキャン

デジタル化すること・

Google フォト、iCloud、

クラウドストレージへの保存

X(旧 Twitter)、Instagram、LINE

ヤット、各種掲示板等、いかなる

ービスへの掲載・共有一度デジタル化さ

す。12. 「回収業者」を装った詐欺と、気になる状況を見かけた場合について今回の回収・加工・廃棄を名目とした不審な訪問・電話・メール等が発生する可能性があります。以下の点にご注意ください。・ PTA および学校から、各ご家庭へ個別に業者を派遣してアルバムを回収することは一切ありません。・ PTA 名・学校名・役員名・委託業者名をかたって○ 自宅への訪問回収○ アルバムの郵送依頼○

料金の振込要求などを行う者がいた場合、すべて詐欺の可能性があります。

・ 正規の回収・加工は、卒業式当日の「校門外」に設置される PTA 受付テント周辺のみで行います。校門外は公道等であり、学校側が第三者の行為を制止できない場所です。そのため、学校職員が「本物かどうか」を保証することはできません。・

当日、正規の委託業者は○会社名入りの腕章○ 「卒業アルバム回収・加工業務 従事者証」(顔写真付き身分証)を必ず携帯・着用します。PTA 役員も「PTA 役員」と明記した名札等を着用します。これらの表示がない人物がアルバムの引き取りを申し出た場合は、絶対に手渡さず、その場を離れ、学校または PTA までご連絡ください。・ 卒業式当日、校門外で通常版アルバムがそのまま持ち帰られている

など、気になる状況を見かけた場合には、可能な範囲で PTA 受付の役員までお知らせください。・ 後日インターネット上で、本校卒業アルバムとみられる画像の晒し

行為や売買行為を見かけた場合は、相手方の連絡先には直接連絡せず、PTA または学校、必要に応じて警察・各種相談窓口へご相談ください。13. お子さまへの声かけの一例 PTA として、保護者の皆さまからお子さまへ、次のような言葉をかけていただくことをおすすめします。「アルバムは危ないところだけ壊して、あなたの分だけ卒業証書みたいにしてくれるよ。いらないと思ったら、全部捨てることもできるからね。」

「一冊丸ごとを大切に取っておく」ことだけが愛情ではありません。必要な部分だけを、安全な形で残すという選択も、子どもたちの将来のプライバシーと自由を守る行動だと PTA は考えます。本方針につきましてご意見もあるかと思いますが、現時点で PTA として取りうる最善の手段として決定したものです。趣旨をご理解のうえ、ご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。ご不明な点がございましたら、下記 PTA 連絡先までお問い合わせください。2025 年 12 月吉日役員一同(連絡先)pta-info-xxxx@example.jp